

僕の心

2010年12月12日 アシェル・イントレーター

カナダの首相

私たちはこれをカナダにいるパートナーであるパトリック・ダウニーさんから受け取りました。「カナダの教会はイスラエルを愛しています。私たちには主を愛する首相がいます。これらの終わりの日々に、カナダはイスラエルと共に立つよう、主がお使いになると信じています。」カナダがイスラエルと共に立つという立場を表明するステファン・ハーパー首相のスピーチをご覧ください。(英語) <http://www.youtube.com/watch?v=AUFdhIOoQM>

僕の心

イエシュアは、弟子たちの足を洗った時、仕える者についての模範を示されました。これは宗教的な儀式ではなく、具体的にどう仕えるのか、何か汚く、名誉も何もないという、他者に仕えるという例を表しています。

ヨハネ 13:14-15 -それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。

私たちは多くの事をしなければならないから仕えるのではなく、僕の心は神のような品位であるからです。多くの雑務や課題は常にありますが、もしそれがなければ、この資質を発達させるために何かを作り出さねばなりません。弟子訓練の目的はイエシュアに似る者となることであり、「イエスのようになる」事であり、キリストのような性質を得ることなのです。汚れた細々とした事に仕える意志はキリストのような性質です。それ抜きでは主のようになることはできません。

1ヶ月に1回、私たちのチームは1日の社会奉仕に出かけます。時間の制限もあり、半日しかさせることができません。私はプロジェクトのコーディネーターであるイダンさんの所に行ってこう言うようにしています。「そちらでの活動で最も汚い作業は何ですか。」私たちが汚いものや細かい事が好きだから、汚い細々とした作業を行うのではありません。私たちが仕えるのは、イエシュアのようにになりたいからです。

「ミニストリー(注)」はヘブライ語で何というか知っていますか。答えは、そのような言葉は存在しません。唯一ある言葉は「奉仕」です。ほとんどの人々はミニストリーという言葉、奉仕とエゴ(自我)を満足させるための活動とを合わせ持った意味として使います。私たちの態度は、「私たちは「ミニ

ストーリーを行う」のではなく、仕えるのだ」であるべきです。神は私たちのプライドやエゴから、主への奉仕を切り分けたいと思っておられるのです。

注:ミニストリーという言葉は、日本語にもそれに該当する言葉はなく、日本語でも大変訳しにくい言葉で、文脈に応じて、そのまま「ミニストリー」、「奉仕」「宣教」「宣教活動」「神に仕える活動」「教える事」など、いろいろ訳し分けています。

これが可能な唯一の方法は「他者のビジョンに仕える」ことです。他者の活動に仕えるまでは、あなたのプライドがあなたがたの「ミニストリー」と分けられているかどうかは分かりません。これこそこの二つを分けるために必要な道具なのです。

ルカ 16:12 - また、あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。

(どうか、この節を読み返して下さい。) ほとんどの人々はミニストリーにやってきて「助け」てくれる人は「神はこのビジョンまたはご計画を与えて下さいました。どうか祝福して下さいますか。」と言います。しかし、僕の心を示す人の言葉は異なっています。それは単に、無条件に「どうしたらあなたを助けることができますか。」というものです。

神は私たちに人生のビジョンや召命を与えて下さいます。しかしビジョンを達成するための聖書的なパターンは、「ビジョンービジョンに死ぬ事ービジョンの再誕生」です。ヨセフにはビジョンがあり、星々が彼を拝みました。彼はそのビジョンが成就し始める前、13年間刑務所で過ごしました。モーセにはエジプトからイスラエルを救うというビジョンがありました。彼は、それが成就するまで40年間砂漠で過ごしました。イエシュアは、神の御国は地に蒔かれて死んだ種のようなだと語られました。その後、それは成長して実をならせませす。(マタイ 13、マルコ 4、ヨハネ 12) 種が死んだ時、殻は核種から分離します。私たちのビジョンが死んだ時、それはくっついていてエゴ(殻)から分離するのです。それが生き返った時、それは純粋なものとなるのです。

神は私たちに指導するよう召命されました。しかし、聖書的な指導の形式は「仕える指導」です。その他の種類はありません。ルカ 22:26 -「**だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようにになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。**」これはまたこう言い換える事ができます。指導する者は仕える者でなければなりません。指導することは、より広い規模で仕える事を単に示します。名誉に関して言うならば、何千人の前で語る事とお手洗いを掃除することに差はないはずです。

ほとんどの社会で、仕える人に対して尊敬と関連付けて見る人はいません。弟子は不名誉なものと思われています。この件に関する聖書的な価値は世界の考え方と反します。仲間からの圧力や通

俗的な意見はあなたに反してくるでしょう。僕の心で歩くために、私たちは、私たちの周りの社会の価値観に反しなければなりません。

マタイ 20:25-26 - そこで、イエスは彼ら呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

私たちは霊的な「賜物」である奉仕について語っているのではありません(ローマ 12:7)。これは特別な恵みであり、奉仕の「カリスマ性(注)」なのです。すべての人がこのような賜物を持っているわけではありません。ここで私たちが語っているのは、仕えるための品位についてです。これはすべての人に要求されているものです。性質がカリスマ性の前に来るのです。実は賜物よりも重要です。仕えるという品位は他のすべての賜物と召命の基礎となるのです。

注:カリスマ性: 聖霊から与えられている特殊な才能や性質。

私たちは人々に仕えます。しかし、人間である彼らに対して仕えるだけではありません。私たちは彼らを通して主に仕えるのです。妻は夫に「主に仕えるように」従います- (エペソ 5:22)。私の妻は最も献身的な態度で私に仕えてくれます。しかし、彼女の優先順位はイエシュアに仕える事が第一であることを私は知っています。私は二番目なのです。私たちにはただお一人の主しかおられません。

エペソ 6:5 - 奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。

私たちの奉仕は人々の反応に依存するものではありません。私たちにはたった一つの望みがあるだけです。私たちが主の目に忠実であることと、主が私たちにこうおっしゃることを望むのです。「よくやった。良い忠実なしもべだ。」- **マタイ 25:21, 23; ルカ 19:17**

僕の心の原則をまとめてみましょう。

1. 仕えるということはキリストのような性質
2. 私たちは「ミニストリーをする」のではなく、仕える
3. 私たちは他者のビジョンに仕える
4. 私たちは「どうしたらあなたを助けることができますか」と尋ねる。
5. ビジョンービジョンに死にービジョンの再誕生
6. すべての指導は仕える指導。
7. カリスマ性の前に性質が来る

イエシュアの例に従い(ヨハネ 13)、私たち自身のプライドをはぎ取り、(ピリピ 2)、そしてこの僕の心の品位を作り上げようではありませんか。